

農業



ウム アワ 想い合ち 次代につなぐ ゆんたんざ農業

本村の農業は、花卉、甘しょ、さとうきび、野菜、畜産等で構成され、粗生産額では花卉が最も高い生産高を上げており、野菜等の園芸作物と共に農業機械施設(ビニールハウス・平張りハウス)、農作業機械(エンジン収穫機等)の導入を図り、計画的な生産体制を整えてきました。

基幹作物であるさとうきびについては、収穫機械の更新導入を計画的に図ることで、収穫作業受託等による作業労力の低減が進み、作付面積の減少に歯止めがかかりつつあり、甘しょとの連作体系も確立されています。

畜産については、和牛の市場価値の高騰から子牛繁殖農家が増加傾向にあり、養豚については、農家は減少傾向にあり、飼料の確保、衛生的な給仕体制の確立等が求められています。また、採卵鶏、山羊、養蜂等も営まれており、山羊についてはかずらを飼料として利用するなど甘しょとの複合経営もみられます。



平張防風施設 小菊(拠点産地認定 平成14年)

本村では、農業生産基盤がほぼ整いつつある現状において、農業の主役である生産者の高齢化や離農等が進んでいます。

今後は、認定農業者や認定新規就農者の育成、地域の農業の設計図となる「人・農地プラン」の実践等により地域の担い手の位置付けを明確化し、農業経営基盤の強化に努めてまいります。

地域と様々な業種が連携し「産業をつくる」、生産される農産物やそこから派生される物の付加価値を高めることで「様々な人が集う豊かな地域をつくる」、農地が作り出す読谷らしい風景、社会的価値としてのグリーンインフラを活かし「風土をつくる」、「想い合ち 次代につなぐ ゆんたんざ農業」の確立に取り組んでまいります。



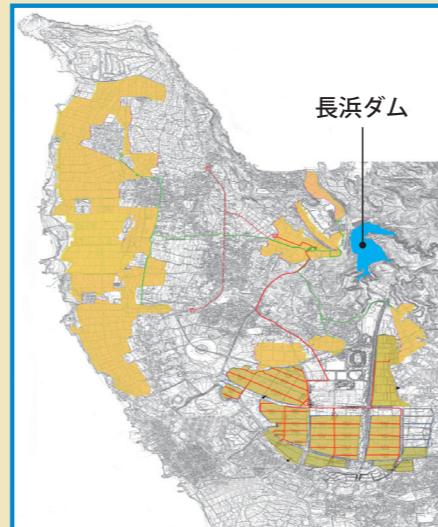
ゆんたんざ農業



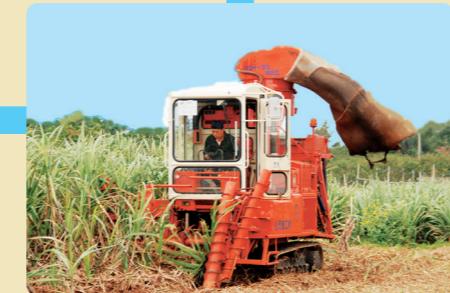
畜産まつり

長浜ダム

(県営かんがい排水事業水利施設)
位置：沖縄県読谷村長浜地区
河川名：長浜川(取水地)
総貯水量：160万立方メートル
受益地区：8地区 389ha
ファームポンド(タンク)：
7,000立方メートル



自然を生かした農業は、 かけがえのない“水資源”から



読谷村特産の紅イモ
甘しょ(拠点産地認定 平成16年)



水産業

未来を展望する漁業の村づくりへ



本村漁業は、沿岸漁業が主体で、水揚げは2015年度からは年間200トンを超える、その約60%が定置網漁業によるものです。定置網漁業は、6月から10月にかけて約70%を水揚げします。冬場の供給不足を解消しようと定置網での漁獲物の畜養を行い、水産物の安定供給に努めています。

近年のリゾート・海洋レジャー等の需要に対応するため、ダイビングやガラスボート等の観光漁業の振興、さらに定置網漁を利用した体験漁業にも取り組み、2013年度は年間1000人以上が体験しました。

2017年にはセリ市場、鮮魚販売店、食堂が一体となった水産物展示販売等施設が整備され、直売店の売上や来客数も大幅に増加し、村内のみならず、県外、国外の観光客も足を運ぶ開かれた漁港として賑わいを見せております。今後は新たな鮮度保持施設の整備により、更なる漁獲量の増加及び水産物の安定供給が期待されます。



水産物展示販売等施設

魚食普及活動の取り組み

読谷漁協では青壮年部による魚食普及を目的とした「みなとピクニック」や「おさかなフェスタ」などが開催されており、食育活動にも取り組んでいます。その実績が認められ、2019年には沖縄県青年・女性漁業者交流大会にてみなとピクニックの事例が沖縄県知事賞を受賞。また、第14回食育推進全国大会では事業者部門にて消費・安全局長賞を受賞いたしました。



みなとピクニック



第11回
商工会特産品フェア
「ありん・くりん市」
特産品コンテスト
最優秀賞受賞



読谷村では地産地消を重視しており、地元の食材を使用した製品の開発を積極的に行っています。水産物を使用した製品としては「海人自慢のもずく丼」などを村・読谷村漁業協同組合、食品に関わる企業、団体の方々と連携して開発しました。もずく丼は2008年に開催された第11回商工会特産品フェア「ありん・くりん市」特産品コンテストで最優秀賞に輝きました。

新たな大型定置網の設置により鮮魚の安定供給が可能になりました。



定置網体験
県内最大 !!



ジンベエザメと泳ごう

体長4メートル、体重1トンのジンベエザメと泳げる

ジンベエザメは読谷近海を回遊して定置網に捕獲されることから、その資源を生かし、大型の生け簀を設置してコバルトブルーの海で巨大なジンベエザメの生態を観察しながら一緒に泳ぐことができます。

